令和5年度　大田区立大森第八中学校　自己評価　報告書

令和6年2月13日

○　本校の概要

☆学校規模：生徒数555名　学級数18学級（15・特支3）　教員数31名
☆教育目標：（1）心身ともに健康な生徒　（2）自ら学び、向上する生徒　（3）心豊かで、思いやりのある生徒
☆学校経営の基本方針：（1）知・徳・体の調和のとれた生徒の育成　（2）活気と感動にあふれた学校　（3）安全・安心で居心地の良い学校、居場所のある学校　（4）生徒が誇りをもち、保護者、地域に信頼される学校

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	2	学校評価【生徒・保護者アンケート】において「将来に関する情報を十分提供してくれる」と回答した割合	4：80%以上 3：60%以上 2：50%以上 1：50%未満	【3,4】保護者62%生徒89%	○これまでの取組 ・外国人講師授業 ・授業見学週間 ・運動会での団体種目の学級取組 ・生徒会活動推進 ↓ ●今後の改善策 ・外国人講師授業充実 ・教員間の相互授業見学 ・年間通した運動の充実 ・生徒会活動充実	A	3	・昨今の急激な時代の変化、環境の変化に対応しなければ生活できない時代になり、大人も子供も大変な時と思います。 ・未来に向けて、生徒に楽しくこの変化に対応していってほしいです ・生徒を指導する先生方は本当に大変な事と思います。感謝感謝です。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	~~4：全教員が行った。~~ ~~3：80%以上の教員が行った。~~ ~~2：60%以上の教員が行った。~~ ~~1：60%未満であった。~~						B	2	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3：70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2：60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1：60%未満であった。	4					C		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	3							
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	2					D		
		すべての活動において主体的、対話的で深い学びを取り入れ、他とのコミュニケーション能力を向上させたり、これからの変化に対応できる力を養成する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	2	学校評価【生徒保護者アンケート】で「通知表の評価をその後の学習に活かしている」と回答した割合	4：80%以上 3：60%以上 2：50%以上 1：50%未満	【3,4】保護者58%生徒80%	○これまでの取組 ・生徒面談 ・テスト成績等の通知 ・補習授業 ・研究授業 ↓ ●今後の改善策 ・生徒面談の充実 ・学習状況の通知の工夫 ・補習授業の充実 ・研究授業研究の充実	A	3	・勉強は大変と思いますが、一人一人違う、未来の大切な人材なので宜しくお願いしたい気持ちでいっぱいです。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。	3					B	2	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80%以上の教員が働きかけた。 2：60%以上の教員が働きかけた。 1：60%以下の教員が働きかけた。	2					C		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	2							
		定期考査の回数を減らし生徒の日常の活動にウエイトをおくことで普段からの学力の定着を強化していくとともに、評価の工夫改善と可視化を図る。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3					D		
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	2	学校評価【生徒保護者アンケート】で「廊下等様々な場面で元気よくあいさつをしている」と回答した割合	4：80%以上 3：60%以上 2：50%以上 1：50%未満	【3,4】保護者68%生徒86%	○これまでの取組 ・小中一貫のルール作り ・道徳の時間の授業研究 ・生活指導部、校内支援委員会による組織的な課題ある生徒への対応 ・生徒会委員会による朝の挨拶運動 ↓ ●今後の改善策 ・小中一貫の取組の充実 ・道徳の研修の充実 ・課題ある生徒情報の有効な活用 ・生徒の自主性を生かした挨拶推進	A	3	・八中ではいつもあいさつをしてくれる生徒が多く気持ちよく元気をもらっています。 ・帰り道を見ていて、何人かで楽しそうに話をしながら帰る生徒が多く見られますが、一人でさみしそうに帰る生徒も少し見られどうしたのかなと心配になります。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	2					B	1	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3					C	1	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3							
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4					D		
		自ら進んであいさつを行う生徒指導を通して、個の自己肯定感を向上させるとともに生徒相互の豊かな心を育むよう、全教職員で取り組む。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	2							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	2	学校評価【生徒保護者アンケート】で「早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣が身に付いている」と回答した割合	4：80%以上 3：60%以上 2：50%以上 1：505未満	【3,4】保護者71%生徒80%	○これまでの取組 ・「早寝・・」の啓発 ・給食だよりの充実 ・体育委員会の活動推進 ・部活動の推進 ↓ ●今後の改善策 ・「早寝・・」の充実 ・給食だよりの充実 ・体育委員会の活動充実 ・部活動の充実	A	3	・好きなスポーツを一生懸命に頑張っている生徒がいます。部活も頑張っているようですが、他にも練習し一人で近くの大会に参加しているとの事で、好きなスポーツを見つけられて良かったネと話しました。勉強は「ちょっと苦手」と本人は言っていましたが、一生懸命の頑張りが勉強もつながると思います。続けられるよう応援したいです。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3					B	2	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3					C		
									D		
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	2	学校評価【生徒保護者アンケート】で「学校に登校するのが楽しく、学校が好きな様子である」と回答した割合	4：80%以上 3：60%以上 2：50%以上 1：50%未満	【3,4】保護者68%生徒81%	○これまでの取組 ・授業公開日 ・OJTの充実 ・教科研究会への出席 ・登校支援員の活用 ↓ ●今後の改善策 ・授業公開日の充実 ・教科部会でのOJTの推進拡大 ・登校支援員と連携した対策の充実	A	3	・いつも大変なことに、先生お一人お一人が一生懸命に生徒と向き合い教育環境を作り進めていただいてると信じて見守っております。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3					B	2	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	2					C		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	4							
		個別に支援を要する生徒や不登校生徒に対しての情報共有を確実に行い関係機関と連携し個に応じた指導・対策を講じ、一人一人の居場所づくりをする。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3					D		
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	4	学校評価【生徒保護者アンケート】で「学校だよりやホームページ等で積極的に情報を発信している」と回答した割合	4：80%以上 3：60%以上 2：50%以上 1：50%以下	【3,4】保護者68%生徒84%	○これまでの取組 ・ホームページ掲載 ・地域教育連絡協議会への資料の提供と説明 ・学校地域支援本部からの支援の提供 ・PTAからの支援の提供 ↓ ●今後の改善策 ・ホームページの充実 ・協議会への適切な資料提供 ・支援本部への協力要請事案の整理と要望 ・PTAへの協力要請事案の整理と要望提示	A	2	・今年度とても大変な年でしたが校長先生を筆頭に現状を改善する努力を怠らず、奔走する先生方の姿は素晴らしいと思いました。 ・とても大切な事と思っております。地域の一人として出来る事はお手伝いさせて頂きたいです。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。	4					B	2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	3					C		
		PTA、スクールサポーターや関係諸機関と連携し、地域と結びつきを深めたり、各教科で持続可能な社会に向けてのSDGS教育・STEAM教育等を推進する	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	2					D		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。